

クループ

症状

- ・ウイルス感染による炎症が声門周囲におよび、上気道の狭窄症状が出現し、犬が吠えるような特有な咳が出現します。
- ・声がかすれ、出なくなることもありますし、なかには強い呼吸困難のために入院治療が必要になることもあります。
- ・時に夜間になってから急に症状が増悪することがありますので注意が必要です。

治療

- ・吸入治療をして、上気道の狭窄症状の軽減をはかります。
- ・主にウイルス感染が原因のため抗菌剤は不要なことが多いですが、細菌感染が疑われた場合には投与されます。
- ・入院するような重症の場合には酸素投与などの治療も必要となります。

家庭で注意すること

- ・室内の加湿に注意しましょう。(加湿器や洗濯物など)
- ・水分の補給を十分にしましょう。(少量ずつ何度もあげましょう。)
- ・食事制限はありませんが、症状の強い時は消化の良い刺激の少ないものをあげましょう。
- ・症状が改善して元気になれば入浴は差し支えありません。

登園・登校のめやす

- ・症状が改善したらかかりつけの先生と相談して登園・登校してください。

急患診療センターを受診するめやす

- ・咳込みがひどく眠れない時
- ・息苦しさが増してきた時
- ・くちびるの色や顔色が悪くなった時
- ・水分があまり取れない時
- ・高熱が続いて元気がなくなってきた時など